

卷第四

述兼變諸證

兼變者、兼挾變壞之謂也、仲景所^レ立、唯是三陽三陰、今^レ更設^レ此目^一、豈不^レ愆邪、曰、否、經雖^レ分^レ六病^一、而不^レ特六病之正證^一、彼六病之所^レ兼所^レ變、皆具^レ列于其中^一、倘不^レ加^レ甄辨^一、則至^レ併^レ正證^一、而不^レ能^レ明、今設^レ此目^一、卽所^レ以^レ使^レ學者於^レ正證與^レ兼變^一、能判然別白^一、然每證必稱^レ何病之類變^一、以見^レ病之條理、不^レ出^レ於三陽三陰六者之外^一焉、曰、然則如^レ漏汗動經之類^一、實係^レ壞病^一、而今^レ更揭^レ仲景所^レ未^レ言之名^一者、何也、曰、壞病、是誤治後變壞者爾、今斯諸證、有^レ兼^レ于未^レ病之前^一者、有^レ不^レ經^レ誤治^レ而變者^一、此所^レ以^レ不^レ能^レ題以^レ壞病^一、而自立^レ此名^一也、其分^レ類者八、曰虛乏、曰熱鬱、曰飲邪搏聚、曰飲邪併結、曰血熱・瘀血、曰熱入^レ血室^一、曰風濕、曰濕熱・寒濕、是也、火逆諸證、少^レ餘義可^レ述、故闕焉不^レ錄、抑前注家、如^レ錢氏尤氏及徐大椿^一、旣分^レ正變諸法^一、然冗雜無^レ統、今不^レ敢從^レ云、

兼變とは、兼挾變壞の謂也、仲景立てる所、唯是三陽三陰、今^レ更^レに此目^{細目}を設ける、豈愆^{あやまち}ならず邪や、曰く、否、經を六病に分けると雖も、而^{しか}して特に六病の正證にあらず、彼六病の兼ねる所變わる所、皆其中に具^{つぶさ}に列^{つら}ねる、倘もし甄^{ケン}・あきらかにする^辨区別するを加えざれば則ち正證に併^{あわ}せて、明^{あきらかにする}能^わずに至る、今此目^{細目}を設ける、卽ち以て學者をして正證と兼變と、能く判然^{はっきりとしたさま}別白^{はっきりする}せしむ所、然れば每證必ず何病の類變かを稱^{のべる}し、以て病の條理、三陽三陰六者の外を出ざるを見ん焉^{断定}、曰く、然れば則ち漏汗動經*の類の如き、實に壞病に係がれども、今^レ更^レに仲景未だ言ざる所の名を掲げるは、何也^{なんぞや}、曰く、壞病、是誤治後變じて壞^{こわれる・わるくなる}者爾^{強調}、今斯この諸證、未だ病まざる前に兼ねる者有り、誤治を経ずして變る者有り、此以て題するに壞病を以てするは能^わずして、自ら此名を立てる所也、其類を分ける者八、曰く虚乏、曰く熱鬱、曰く飲邪搏聚、曰く飲邪併結、曰く血熱・瘀血、曰く熱入^レ血室^一、曰く風濕、曰く濕熱・寒濕、是也、火逆諸證、餘^{のこる}義述るべきは少ない、故に闕^欠し焉^{ここに}錄^録せず、抑^{そも}も前注家、錢氏尤氏及徐大椿の如き、旣に正變諸法を分ける、然れども冗雜^{ごたごたと}いりみだれ^{だれ}ている統^{ひとつにまとめる}無し、今敢えて従^わずして云う、

*太陽病中三十七條「傷寒 若吐 若下後 心下逆滿 氣上衝胸 起則頭眩 脈沈緊 發汗則動經^{循環系に衝撃を与える}」
寒論入門」 身為振振搖者 茯苓桂枝白朮甘草湯主之」

太陽病上二十一條「太陽病 發汗 遂漏不止 其人惡風 小便難 四肢微急 難以屈伸者 桂枝加附子湯主之」

完 2010/03/01